

朗文堂ちいさな勉強会『紙』講座 資料



『紙漉重宝記』

(国立国会図書館 請求番号 特1-3415)

{参考 URL / 朗文堂 花筏}

紙の博物館 — 王子 ミニ展示「紙漉重宝記」

会 期 2018年06月16日[土]

—2019年03月03日[日]

『紙漉重宝記—かみすきちょうほうき』参考：寿岳文章（『国史大辞典』、吉川弘文館）

篤農家、^{くにさきじ へい}国東治兵衛の著書。一卷。寛政十年（1798）刊。

著者の遠祖は豊後国^{わさだ}植田郷（大分市）にいたが、いつのころか同国^{くにさきぐん}国東郡に移って国東を名のり、江戸時代石見国美濃郡遠田村（島根県益田市）に定住した。

治兵衛の生まれたのは元禄の末ごろと思われるが、生没年はつきとめられていない。享保17年（1732）の大飢饉に触発されて、豊後（大分県の大部分）や、備後（広島県の東部）から^{いぐさ}蘭草をとりよせ、^{いむしろ}蘭筵の生産を年間60万枚にのばすなど、殖産家としての業績も多いが、彼の名を後世内外に伝えることとなったのはこの小著。

紙問屋の主人でもあった彼が、名所図絵の画工：丹羽桃溪に挿絵を画かせ、方言もとり入れ、商品となるまでの石見半紙のすべてについて語ったもの。啓蒙的な著述ながら、製紙を図解した最初の書物であり、山村紙すきの苦労も視覚的にしのばれるためか、和紙文献としては最も早く海外に知られ、英・独・仏語による翻訳があとをたたない。本邦でもしばしば翻刻・複製された。『日本科学古典全書』、『製紙印刷研鑽会叢書』などに収められている。

{朗文堂ちいさな勉強会『紙』講座} 受講者資料

訳読協力 / 「平野富二生誕の地」碑建立有志会代表：古谷昌二氏

意訳協力 / {『紙』講座} 講師：原 啓志氏

